DUNLOP NEXT CUP
Three Bond 神戸シリーズ第 2 戦

開催日：5 月 7 日
開催地：神戸スポーツサーキット（兵庫県）
天候：晴れ

ゴールデンウィーク最後の週末となる 5 月 7 日、兵庫県・神戸スポーツサーキットでダンロップネクストカップ ThreeBond 神戸シリーズ第 2 戦が行われた。
前回の大会からは、前回 3 位だった氏家颯太郎がスポット参戦だったため今回は欠場。かわって、東地域で開催されている EXGEL 新東京シリーズ開幕戦を制した皆木駿輔が、遠征し参戦。今回も 13 台のエントリーとなった。
全国的に好転に恵まれたゴールデンウィーク。ここ神戸も例外ではなく、レース日は晴天となり絶好のレース日より。午後からは日差しも強まり、早くも夏到来を感じさせる陽気となった。
朝一番に行われた公式練習＆タイムトライアル。各選手ともピットに戻ることなく、精力的に周回を重ねていく。タイムトライアルも好タイムが連発されるが、ラストアタックで前回優勝の堀尾風允が全体トップタイムをマーク。予選のポールポジションを獲得する。2 位には親川謙心、3 位に清水跳馬と続く。
予選ヒートでは堀尾がホールショット。その直後に清水が続き僅差で周回を重ねていく。3 番手以降は上位 2 台からはやや離され、親川と皆木が接近戦を展開、それを狭間翔太がマークする。
接近戦を続けるトップ 2 だったが、堀尾にスキはなくトップをキープしたままチェッカー。まずは開幕から 3 ヒート連続トップチェッカーとなった。2 位には清水、3 位に親川と続いた。
18 周の決勝ヒート。ここでも堀尾が好ダッシュでトップをキープ。2 番手に清水、3 番手親川、以下皆木、津端剣心と続く。堀尾、清水、親川、津端の 4 人はほぼ等間隔で並び周回を重ねていく。イコールコンディションのパッケージのため、差がつきにくく、また差が縮まりにくい。どのドライバーもミスなく周回を消化していく。
レースが折り返しを過ぎると、徐々に堀尾がリードを広げ始める。清水も単独 2 番手で堀尾を追いかけるが、ジリジリと差は開き、トップ 2 はそれぞれ独走状態となる。その後方では、トラブルを抱えペースが落ちてきた親川に津端が接近。13 周目に 3 番手を奪う。
レースが終盤に入ると、堀尾と清水との間隔は 1 秒ほどに広がり、実質的には勝負ありといった様相となる。最後まで一度もトップを譲らなかった堀尾は、開幕戦に続く完全優勝。今シーズンの 4 ヒート全てでトップチェッカーと、未だに誰かの後塵を喫するということがない完璧な内容で、もちろんランキングトップをキープ。2 には清水が入り初の表彰台を獲得。3 位は津端が入り、開幕戦に続く表彰台獲得となった。
なお、優勝した堀尾は、6 月開催の新東京シリーズへのスポット参戦も検討している。

●堀尾風允
今回は前回と比べてみんなのレベルが上ってきたので、厳しいレースだと思っていました。いかにミスしないか、前回と同じことですがそのレベルが上っていました。予選は本当にヒヤヒヤしました。自分のミスで差を広げられなかったので、決勝はそこを切り替えて良かったかなと思っています。
次ももちろん勝ちにいきます！

●清水跳馬

今回のレースは予選からすごく良く、タイムトライアルは前についていけ、3位という結果でした。それを受け止め、予選でスタートが上手くいって2位に上がれてトップに選手にピッタリとついていけて、予選はいい感じで終わりました。決勝は、序盤はついていけたのですが、後半になると体力的にも差がありまｓた。次回は、今回の調子を維持して優勝できるように頑張ります。

●津端剣心
予選結果から考えると、３つポジションを上げられてよかったのですが、予選でなかなかセットを出すことができず、その分決勝で苦労して 3 位という結果になってしまいました。タイムトライアルでポールを取れなかったことが敗因だと思います。決勝のペースもトップの堀尾選手と、大差はなかったので最初からトップにいればいいバトルができていたと思います。そのスタート位置が大事なので、そこを改善して TT からポール狙って頑張っていきたいと思います。